

東京ゆりかご幼稚園での
1年の流れ

- 4月 ● 進級式、入園式、春の遠足
- 5月 ● 田植え
- 6月 ● 麦の収穫・脱穀・製粉、カレーパーティー
- 7月 ● クッキング、夏祭り、サマーキャンプ
- 10月 ● 運動会、秋の遠足、いもほり会、稲刈り
- 11月 ● やきいも会、クッキング
- 1月 ● もちつき会、どんど焼き、クッキング
- 2月 ● 豆まき会、生活発表会
- 3月 ● ひなまつり会、お別れ会、卒園式

1年の行事で感動する瞬間は？



EVENT 6月 麦の収穫

昨年の11月に自分たちで植え、これまで育てて来た麦を収穫し、小麦粉にするところまでやりました。その後の活動では、すいとんを作り、美味しくいただきました！



EVENT 10月 運動会

始めは布を離さないでいることも難しかった子どもたちが、日々小さな目標を1つずつクリアしていき、本番では心を一つに綺麗なバルーンができて感動しました。



EVENT 11月 焼き芋パーティー

園庭で焚火を起こし、自分たちで収穫をしたサツマイモを焼きます。「この品種は紅はるかっていうんだよ〜」と、子どもたちと一緒に学びながら美味しくいただきました。



「比べる」業界徹底比較
1年の流れで比べてみよう！
幼稚園

東京で自然溢れる
充実した1年が
生きる力を育む園

自然豊かな場所で働きたい
妥協しなかった園探し

登山道のような階段を登って行った先にあるのは、広大な野山が広がる園庭を持つ東京ゆりかご幼稚園。そこで働くみやび先生は、自然に囲まれた環境で育ってきたからこそ、「自然との距離」に着目して就職先を探していたという。「インターネットなどで調べてなんとなく園のことは知っていたのですが、ある時、学校に置いてあるココキヤリノートに載っているのを見つけ、すぐ近くにこんな豊かな自然がある幼稚園は東京ゆりかごしかない！と、興味が湧きました。そして園見学へ行き、一瞬でこの環境に心奪われ、自分のやりたい教育ができる園であれば地元でなくとも良いと思っていたので、迷うことなく決めました」

自然は学びの宝庫！
一生記憶に残る経験と感動

同園には自然を活かした行事が多くある。その中でも特にみやび先生の印象に残ったのは、6月の麦の収穫だという。「園内で育てた麦を収穫し、千歯扱き※1などを使って脱穀※2し、石臼で挽いて小麦粉にしました。普段食べているものがどうやってできるのか興味を持つきっかけにもなりますし、便利なものが多い現代で、子どもたちと原体験※4※5できたこととても感動しました！麦の茎をストローにしたり、麦茶を作ったりと、麦を余すことなく堪能できました」東京にいながらも、感性豊かな幼少期にこうした経験ができる子どもたちが羨ましいという。

仙台白百合
女子大学 卒業
2022年4月 入職
大沼 雅
Onuma Miyabi

常に自然を感じられる場所
で幼児教育に携わりたい
と考え、宮城県から上京。
1年を通してたくさんの
生き物と出会えるピ
オトブがお気に入りの
場所。



「本物」がすぐそばに
探求心を尊重できる環境

「ある時、ピオトブで捕まえたドジョウを水槽に入れて教室に置いておいたんです。次第に子どもたちが興味を持ち始め、1人1冊持っている図鑑で『この子は何種類かいるうちのどのドジョウだろう？』と調べ始めました。しかし、特徴が捉えにくくわからなかったため、もう1匹捕まえに行こう！と教室を出てピオトブへ行き、この子たちはホトケドジョウだということがわかりました。そこからさらに、『ドジョウは何を食べるんだろう？土に潜るらしいから水槽に入れてあげよう！』と活動が広がっていき「子どもたちの興味や疑問が生まれた時、すぐに本物を探しに行ける環境が同園にはある。子どもたちと同じ目線で学び、考え、充実した日々を過ごしている」とみやび先生は話す。

「生きる力」とは何か
大自然から学べること

広大な園庭だからこそ、子どもたちが安全に遊べるような環境作りは大変である。同園には、園児や教員、有志の保護者が集まった「ゆりかご鉄腕クラブ」という活動があり、みんなで田んぼの草取り、池の整備、水遊び場作りなどを行っている。「普段の行事でも保護者や地域の方々の協力は欠かせません。当園には、生き物や自然が好きな人たちが集まって

くれるんです。環境整備や行事を行う度に人との繋がりを感じ、温かい気持ちになります。時には自然の厳しさを味わうこともありすが、四季の移り変わりを通して「今」という瞬間を大事にできているなと思います。令和の時代だからこそ、普段気づくことができている大切な「何か」が、ここ東京ゆりかご幼稚園にはあるのかもしれない。



学校法人東京内野学園
(取材園：東京ゆりかご幼稚園)

法人情報
東京都八王子市
七国3-50-2
☎042-632-8188
設立：1975年3月



山、川、森、畑、棚田、芝生などが広がる2.2haの園庭を存分に活かし、子どもたちの「生きる力」を育てるため、様々な体験遊びを取り入れている。四季を通じた自然の美しさや尊さ、ときには厳しさをすぐそばで感じながら、先生たちと一緒に日々学んでいる。

※3 唐箕…白などで籾殻をはずした後、風力を起こして穀物を籾殻・玄米・塵などに選別するための農具。
※4 原体験…五感による直接体験。自然物ものを作ったり、遊んだり、探したりという体験をすること。

※1 千歯扱き…稲刈り後、干した稲穂を櫛状の歯に通し籾を引っ掛けて取るための道具。
※2 脱穀…収穫した穀類を茎からはずすこと。